

市町村名： 常滑市、半田市

1. 輸送サービスの範囲

(1) 利用対象地域

半田市中部・南西部地域、常滑市南東部・西部地域

(2) 利用数 (現在：平成30年度)

- ・現在利用者数 (平成30年度) : 58,870人
- ・将来利用者見込数 (平成33年度) : 63,580人

(3) 路線の特性及び利用者の特徴

- ・知多半田駅・常滑駅への通勤・通学者
- ・沿線の愛知県立半田養護学校、常滑西小学校への通学者

(4) 路線の必要性

・本路線がない場合、半田市中部から常滑中心部に公共交通で移動するには名鉄太田川駅を経由するしかなく、非常に不便である。

2. 輸送サービスの形態

- ・民営バス事業者運行による乗合バス (路線定期運行)

3. 輸送サービスの水準

区分	系統名	運行系統			系統 キロ程	1日当たり 計画運行回 数	運行時間帯	備考		
		起点	主な経由地	終点						
計画 (H30.10)	半田・常滑 (B) 線	知多半田駅	常滑駅	常滑市民病院	往 14.9	8.1	6:10 ~ 21:20			
					復 14.9					
					半田市 往 7.1					
					常滑市 往 7.8					

4. 輸送サービスの提供主体及びその理由

常滑市内において同社が運行する半田・常滑 (C)線、半田・常滑 (D・F)線、常滑南部 (C)線と補充して、利用者の利便を図っている。

5. 輸送サービスの提供主体及びその理由

区分	系統名	1日当 たり計 画運行 回数 (回) A	計画 平均乗 車密度 (人) B	計画輸送量 (人) 1日あたり計画運行回数 ×計画平均乗車密度 【A×B】	乗合バス 事業者キ ロ当たり 経常費用 (円線) C	当系統キ ロ当たり 経常収益 (円線) D	計画実車 走行キロ (km) E	経常費用 (千円) F (C×E)	経常収益 (千円) G (D×E)	差額 (千円) H (F-G)	負担者別内訳			
											国 (千円)	県 (千円)	市町村 (千円)	事業者 (千円)
計画 (H30.10)	半田・常滑 (B)線 (親行からの変更点)	8.1	4.6	37.2 8.1 × 4.6	352.39	330.09	28,655	31,241	29,264	1,977	1,679	1,679	0	67

6. 輸送サービスの利用促進計画

(1) 利用者数の目標

区分	30年度(見込)	31年度	32年度	33年度
年間利用者 数(人)	58,870	63,580	63,580	63,580
※上記目標 設定の考 え方	平成30年度見込みを維持することを基本として設定した。			

(2) 利用促進策

区分	利用促進策の内容
31年度 32年度 33年度	ホームページ、広報紙への時刻表掲載、利用促進PR、学校との連携強化

(3) 事業の効果

区分	事業効果の内容
31年度 32年度 33年度	半田・常滑 (C)線、半田・常滑 (D) (F)線と共に常滑線を維持することにより、常滑南東部、西部地域住民に必要な不可欠な移動手段が確保される。

(4) 平成29年度事業評価結果の反映

ホームページ、広報紙への時刻表掲載を行い、利用促進へのPRをすすめる。
自治体間の情報共有に努めるとともに、沿線のイベント情報等の情報発信を協力して行う。

7. 収支改善計画（生産性向上の取組）

(1) 31年度の生産性向上の取組

	運営主体	沿線市町村①		沿線市町村②		沿線市町村③	
		市町村名	半田市	市町村名	常清市	市町村名	
取組 （経費削減等）	わかりやすく、利用しやすいダイヤ設定とその周知。 青山駅の乗り入れ。		①路線の見直しにより青山駅の経由及び本路線のフィーダーとして位置付ける新たなバス路線の実証運行を行う。 ②市報に時刻表を折り込み配布及び公共施設への配架した。 ③主要な公共施設に、最寄りのバス停の時刻表を配布。		事業者と連携し、広報誌や市のホームページで利用促進に努める。		
スケジュール等			①10月1日～ ②、③随時		随時		

(2) 定量的な効果目標

指標	沿線市町村意見			運営主体の案	31年度目標値		29年度現状値	
	市町村名①	半田市	市町村名②		常清市	市町村名③		
指標		常清線3線の平均乗車密度		常清線3線の平均乗車密度		常清線3線の収支改善率	1.08	1.00
選択の理由		明確であるため		明確であるため			(目標設定の考え方) 増収と経費削減の両面に取り組み、路線収支を改善させる。	

平成31年度 半田・常滑 (C)線に係る生活交通確保計画

市町村名: 常滑市、半田市

1. 輸送サービスの範囲

(1) 利用対象地域

半田市中部・南西部地域、常滑市南東部・西部地域

(2) 利用数 (現在:平成30年度)

・現在利用者数 (平成30年度) : 95,015人
 ・将来利用者見込数 (平成33年度) : 102,616人

(3) 路線の特性及び利用者の特徴

・知多半田駅・常滑駅への通勤・通学者
 ・沿線の愛知県立半田養護学校、常滑西小学校への通学者

(4) 路線の必要性

・本路線がない場合、半田市中心部から常滑中心部に公共交通で移動するには名鉄太田川駅を経由するしかなく、非常に不便である。

2. 輸送サービスの形態

民営バス事業者運行による乗合バス (路線定期運行)

3. 輸送サービスの水準

区分	系統名	運行系統			系統 キロ程	関係市町村キロ程		1日当たり 計画運行回数	運行時間帯	備考
		起点	主な経由地	終点		半田市	常滑市			
計画 (H30.10)	半田・常滑 (C) 線	知多半田駅	りんくう常滑 駅	常滑市民病院	往 18.9 復 18.9	往 7.1 復 7.1 往 11.8 復 11.8	6.4	8:00 ~ 22:25		

4. 輸送サービスの提供主体及びその理由

常滑市内において同社が運行する半田・常滑 (B) 線、半田・常滑 (D・F) 線、常滑南部 (C) 線と補完して、利用者の利便を図っている。

5. 輸送サービスの提供主体及びその理由

区分	系統名	1日当 たり計 画運行 回数 (回) A	計画 平均乗 車密度 (人) B	計画輸送量(人) 1日あたり計画運行回数 ×計画平均乗車密度 (A×B)	乗合バス 事業者キ ロ当たり 経常費用 (円) C	当系統キ ロ当たり 経常収益 (円) D	計画乗車 走行キロ (km) E	経常費用 (千円) F (C×E)	経常収益 (千円) G (D×E)	差額 (千円) H (F-G)	負担者別内訳			
											国 (千円)	県 (千円)	市町村 (千円)	事業者 (千円)
計画 (H30.10)	半田・常滑 (C) 線 (運行からの変更点)	6.4	4.6	29.4 6.4 × 4.6	352.39	254.14	89,548.2	31,556	22,758	8,798	4,394	4,394	0	1,758

6. 輸送サービスの利用促進計画

(1) 利用者数の目標

区分	30年度(見込)	31年度	32年度	33年度
年間利用者数 (人)	95,015	102,616	102,616	102,616
※上記目標 設定の考え方	平成30年度見込みを維持することを基本として設定した。			

(2) 利用促進策

区分	利用促進策の内容
31年度 32年度 33年度	ホームページ、広報紙への時刻表掲載、利用促進PR、学校との連携強化

(3) 事業の効果

区分	事業効果の内容
31年度 32年度 33年度	半田・常滑 (B) 線、半田・常滑 (D) (F) 線と共に常滑線を維持することにより、常滑南東部、西部地域住民に必要な移動手段が確保される。

(4) 平成29年度事業評価結果の反映

ホームページ、広報紙への時刻表掲載を行い、利用促進へのPRをすすめる。
自治体間の情報共有に努めるとともに、沿線のイベント情報等の情報発信を協力して行う。

7. 収支改善計画（生産性向上の取組）

(1) 31年度の生産性向上の取組

	運営主体	沿線市町村①		沿線市町村②		沿線市町村③	
		市町村名	半田市	市町村名	常滑市	市町村名	
取組 経費削減策等	わかりやすく、利用しやすいダイヤ設定とその周知。 青山駅の乗り入れ。	①路線の見直しにより青山駅の経由及び本路線のフィーダーとして位置付ける新たなバス路線の実証運行を行う。 ②市報に時刻表を折り込み配布及び公共施設への配架した。 ③主要な公共施設に、最寄りのバス線の時刻表を配布		事業者と連携し、広報紙や市のホームページで利用促進に努める。			
スケジュール等		①10月1日～ ②、③随時		随時			

(2) 定量的な効果目標

指標	沿線市町村意見			運営主体の案		
	市町村名① 半田市	市町村名② 常滑市	市町村名③	常滑線3線の 収支改善率	31年度目標値 1.08	29年度現状値 1.00
選択の理由	明確であるため	明確であるため			(目標設定の考え方) 増収と経費削減の両面に取り組み、路線収支を改善させる。	

平成31年度 半田・常滑 (D) (F)線に係る生活交通確保計画

市町村名: 常滑市、半田市

1. 輸送サービスの範囲

(1) 利用対象地域

半田市中部・南西部地域、常滑市南東部・西部地域

(2) 利用数 (現在:平成30年度)

・現在利用者数 (平成30年度) : 101,927人
 ・将来利用者見込数 (平成33年度) : 110,081人

(3) 路線の特性及び利用者の特徴

・知多半田駅・常滑駅への通勤・通学者
 ・イオンモール常滑への通勤客、買い物客

(4) 路線の必要性

・本路線がない場合、半田市中部から常滑中部部に公共交通で移動するには名鉄太田川駅を経由するしかなく、非常に不便である。

2. 輸送サービスの形態

民営バス事業者運行による乗合バス (路線定期運行)

3. 輸送サービスの水準

区分	系統名	運行系統			系統 キロ程	関係市町村キロ程		1日当たり 計画運行回数	運行時間帯	備考
		起点	主な経由地	終点		半田市	常滑市			
計画 (H30.10)	半田・常滑 (D) (F)線	知多半田駅	りんくう常滑 駅	中部国際空港 (循環A・C)	往 22.9	往 6.5	9.0	5:50 ~ 23:05		
					復 22.4	復 6.5				復 11.8

4. 輸送サービスの提供主体及びその理由

常滑市内において同社が運行する半田・常滑 (B)線、半田・常滑 (C)線、常滑南部 (C)線と補完して、利用者の利便を図っている。

5. 輸送サービスの提供主体及びその理由

区分	系統名	1日当 たり計 画運行 回数 (回) A	計画 平均乗 車密度 (人) B	計画輸送量 (人) 1日あたり計画運行回数 ×計画平均乗車密度 【A×B】	乗合バス 事業者キ ロ当たり 経常費用 (円銭) C	当系統キ ロ当たり 経常収益 (円銭) D	計画実車 走行キロ (km) E	経常費用 (千円) F (C×E)	経常収益 (千円) G (D×E)	差額 (千円) H (F-G)	負担者別内訳			
											国 (千円)	県 (千円)	市町村 (千円)	事業者 (千円)
計画 (H30.10)	半田・常滑 (D) (F)線 (現行からの変更点)	9.0	4.6	41.4 9.0 × 4.6	352.39	269.00	149,967.3	52,847	40,341	12,506	4,745	4,745	0	1,898

6. 輸送サービスの利用促進計画

(1) 利用者数の目標

区分	30年度(見込)	31年度	32年度	33年度
年間利用者数 (人)	101,927	110,081	110,081	110,081
※上記目標 設定の考え方	平成30年度見込みを維持することを基本として設定した。			

(2) 利用促進策

区分	利用促進策の内容
31年度 32年度 33年度	ホームページ、広報紙への時刻表掲載、利用促進PR、学校との連携強化

(3) 事業の効果

区分	事業効果の内容
31年度 32年度 33年度	半田・常滑 (B)線、半田・常滑 (C)線と共に常滑線を維持することにより、常滑南東部、西部地域住民に必要な移動手段が確保される。

(4) 平成29年度事業評価結果の反映

ホームページ、広報紙への時刻表掲載を行い、利用促進へのPRをすすめる。
自治体間の情報共有に努めるとともに、沿線のイベント情報等の情報発信を協力して行う。

7. 収支改善計画（生産性向上の取組）

(1) 31年度の生産性向上の取組

	運営主体	沿線市町村①		沿線市町村②		沿線市町村③	
		市町村名	半田市	市町村名	常滑市	市町村名	
取組 （経費削減策等）	わかりやすく、利用しやすいダイヤ設定とその周知。 青山駅の乗り入れ。	①路線の見直しにより青山駅の経由及び本路線のフィーダーとして位置付ける新たなバス路線の実証運行を行う。 ②市報に時刻表を折り込み配布及び公共施設への配架した。 ③主要な公共施設に、最寄りのバス線の時刻表を配布		事業者と連携し、広報紙や市のホームページで利用促進に努める。			
スケジュール等		①10月1日～ ②、③随時		随時			

(2) 定量的な効果目標

	沿線市町村意見			運営主体の案		
	市町村名①	半田市	市町村名②	常滑市	市町村名③	
指標	常滑線3線の平均乗車密度	常滑線3線の平均乗車密度		常滑線3線の収支改善率	31年度目標値 1.08	29年度現状値 1.00
選択の理由	明確であるため	明確であるため			(目標設定の考え方) 増収と経費削減の両面に取り組み、路線収支を改善させる。	